

みやけの風

第 205 号

平成17年(2005年)1月8日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

新年あけましておめでとうございます。

避難指示解除が正式に発表され、いよいよ帰島が目前のこととなってまいりました。全ての三宅島の皆さまにとりまして、新しい年が、たくさんの喜びに恵まれた一年となりますように。

新年のご挨拶

希望の歩みを共に進みましょう

明けましておめでとうございます。

誰もが予想もしなかった、集団としての長い長い避難生活が続きました。

いま、希望の朝を迎えて、故郷三宅島へ帰ることとなります。この帰島が全ての島民の方々にとって祝いの事業であることを深く願います。

支援センターは再び全ての善意の人々に呼びかけ、『島民の安全な帰島』が行われるよう、帰島支援ボランティア事業を実施することを宣言いたしました。

本年二月より7月までの半年間、島内にボランティア拠点(センター)を設置し、毎日数10名の善意の人々が、島民の帰島・暮らしの再建を支援します。

今年は『阪神・淡路大震災』の十周年の年となります。この間、三宅島をはじめ、内外で多数の自然災害が発生し、多くの尊い『いのちと暮らし』が失われたことに心が痛みます。

しかし、この災いの中からも、皆さまをはじめ多くの人々と共に、『希望』を見いだす歩みを、本年も進めましょう。

(三宅島災害・東京ボランティア支援センター事務局長 上原 泰男)

避難指示解除に思う

全島避難して5回目の正月を迎えました。避難当初はこんなに長期になるとは誰も予想しなかった事だろう。今、帰島を目前にして、過ぎた日々を思うと感無量のものがあります。

避難してすぐに、三宅島の災害支援に多くの団体の代表者が会合を開き、「三宅島支援・東京ボランティア支援センター」をうち

立て、支援の基本が決定された時の感激、忘れることは出来ません。それ以来、上原事務局長を中心に活発な活動が始まりました。

島民から友人や知人の避難した場所が知りたいと言う声を受け、苦労して作った島民電話帳を配布して喜ばれ、いつでも誰かと話が出来るという安堵感と気持ちの落ち着きを持たせてくれた事、また、なんとか島民が一堂に会して健在を確かめ合い、楽しく一日を過ごすことは出来ないかと多くのボランティアの協力で、2000年12月3日、芝浦小学校にて「ふれあい集会」を開催し、支援の方々からの心のこもったもてなしに、島民の方々の見せた嬉しそうな顔は生涯忘れることは出来ません。それから回を重ねる度にこれで帰れるか、帰れるかと誰もが思った事だろう。それが9回になりやっと帰島となりました。

長い間、私達を支援してくださった多くの団体やボランティアの皆さんに、お礼を申し上げます。また帰島後、三宅島でも長期的に支援して下さるとの事。心強いです。早く島が落ち着いて、支援して下さった皆様と「三宅集会」が開催できる事を願っています。

(三宅島社会福祉協議会会長 寺本 達)

みんなの声

避難指示解除に思う

避難指示解除が2月1日と発表されました。全島避難より4年5ヶ月、私たちは様々な思いや悩みを抱えながらも、ついに帰島の日を迎えることになりました。「人口は半減する見込み」と記者会見で村長が述べているように、帰島後の暮らしは決して楽観できるものではありませんが、下ばかり見ずに上を向いて暮らしていきたいものです。(桑村 健司)

いま、わたしたちに、できること。2005 ～1.17KOBE MEMORIAL 灯りのつどい～ へのお誘い！

今年も、東京災害ボランティアネットワーク主催のイベント『いま、わたしたちに、できること。2005～1.17KOBE MEMORIAL 灯りのつどい』が開催されます。今年には1995年の阪神・淡路大震災から10年目ということで、市民、企業、行政、NPO/NGOなどの地域に根ざしている多くの人々と手を携え、この間に私たちが取り組んできたことの集大成として、阪神・淡路大震災、およびその後のさまざまな災害からの気づきや教訓を生かし、新潟中越地震被災地への支援や三宅島の帰島支援、そして、これから起こりえる災害に備え一人でも多くの一般市民の命を守るためのイベントにしたいと考えています。

また、今、まさに災害を生き抜くことを実践している三宅島の方々にも、出来るだけ多数ご参加いただき、これから始まる三宅島での生活の再開にむけて、現状を私たちに伝えていただき、私たちの支援をお伝えしたいと願っています。

『ふれあい集会』を支えてきたたくさんのボランティアが作っているこのささやかなイベントに、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、会場の模様をインターネットで生中継配信いたしますので、パソコン通信をなさる方は、是非、<http://www.tosaibo.net/>からご覧ください。

日時：2005年1月15日(土)14:00～16:30(第一部 くらしと防災を考えるイベント)
16:30～17:46(第二部 1.17灯りのつどい)

場所：東京国際フォーラム地上広場(中庭) (JR・地下鉄有楽町駅前ガラスのビル)

内容：展示(パネル・映像/三宅島噴火災害・新潟中越地震・スマトラ沖地震)/三宅村商工会女性部&東京都生協連による炊き出し/起震車体験/煙ハウス体験/負傷者対応体験/防災クイズ/神戸とのインターネット中継/1.17灯りのつどい(5時46分黙祷)

主催：東京災害ボランティアネットワーク

共催：株式会社東京国際フォーラム/東京ボランティア・市民活動センター

後援：社団法人 日本経済団体連合会1%クラブ/東京都/千代田区

問い合わせ：東京災害ボランティアネットワーク事務局 福田/ウラベ

TEL：03-3235-1171 E-mail：office@tosaibo.net

あの阪神・淡路大震災から、10年が経ちました。
そして、新潟や三宅島では、
今も懸命に災害に立ち向かおうとしている方々がいます。

悲しみだけを辿っても、失われた「いのち」が
還ってくることはありません。

彼らが、わたしたちに残してくれた大切なものを
来たるべき災害から、自らと家族の「いのち」を、
地域での「くらし」を守るための知恵にかえて、
いま、わたしたちに、できること、を確かめてゆきます。

そして、新潟中越地震、三宅島雄山噴火の被災者の方々に、
気持ちを寄せてゆきます。

